

受講番号 18073 学校名 愛宕中学校 氏名 西 桂子

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 1年5組 生徒数 17 名
 科目名 1年 単位数(授業時数) 3 時間 使用教科書名 NEW HORIZON English Course 1

クラスの様子・特徴

1年生は、各クラス出席順に前・後半2つのグループに分け、少人数授業を行っている。対象クラスの後半17名(男子8名、女子9名)の生徒達は、素直で比較的落ち着いた学習態度であるが、積極性に欠け、特に男子は全体的におとなしい感がある。

問題の確定

英語への苦手意識を持っている生徒、また、理解力はあるが積極性に欠ける生徒も見られ、全体的に音読の声が小さい。

予備調査

A 授業の観察

音読や口頭練習の声が全体的に小さい。何度か繰り返させたり、友達の声によく耳を傾けるよう注意を促すと、より声が出るようになる。個々に指名すると、声は小さいが、答えようとしている生徒がほとんどである。(5月～6月)

B 生徒による授業評価

アンケートの結果から、多くの生徒は4技能のうち、特に「話す」「読む」「書く」技能をそれぞれ身につけたいと思っていること、また、楽しくわかりやすい授業を望んでいることがわかった。(4月)

C 学力データ

一学期の中間・期末テストの結果から、観点別の評価で最も割合が高かったのは、理解力がAの50% (うちリスニング力はBの75%)、表現力がA、B各37.5%、言語や文化の知識・理解力はAの56.3%であった。(7月)

リサーチ・クエスチョン

生徒が楽しく意欲的に英語学習に取り組み、大きな声で音読するにはどうすればよいか。

仮説・実践・検証

仮説1

warm-upとして英語の歌を歌うことによって生徒の声が出るようになり、英語独特のリズム感も身につけ、英語学習への動機づけになるのではないか。

実践1

授業の始めに声出しと授業の雰囲気作りのため、英語の歌を歌うようにした。曲は、歌詞が覚えやすく、歌いやすいと思われるものを選んだ(教科書に掲載されているものも含む)。英語の読み方や意味が分かった上で歌えるようにするため、未習語には読みがなをふり、日本語訳も載せ、初回時には全体を通して歌詞をリピートさせた。

検証1

毎回、英語の歌を楽しみにするようになり、休み時間等に口ずさむ生徒も出てきた。2学期末のアンケートでも、英語の歌が英語への興味づけになったと答えた生徒は90%を越えた。「よく声を出して歌えた」は40%で、英語の歌を歌うのは難しいと感じる生徒もいたが、「何度も歌っているうちについていけるようになった」等、一生懸命歌おうと努力し、楽しく英語の歌に取り組めたという生徒が大半であった。

仮説2

チャンツを行うことによって授業の雰囲気を盛り上げ、楽しみながら英語の自然なリズムと発音を身につけることができ、意欲の喚起につながるのではないか。

実践2

「NHK 新基礎英語I チャンツでノリノリ英語学習!」の中から、既習の文法事項を含んだチャンツを授業の始めに行った。AとBの対話形式になっており、1回目はCDと同時に全体で、2回目はCDがAで生徒がB、3回目はCDがBで生徒がA、4回目は生徒だけでAとBを男女で役割分担し、リズムに合わせて行った。学習の進捗に従って、その都度、新しいチャンツを取り入れるようにした。

検証2

1学期後半に比べ、2学期には、チャンツのリズムに乗って声を出せる生徒が次第にふえてきた。特に、男女で対話する際には、多くの生徒が声を出せるようになった。アンケートでは、チャンツが英語への興味づけになったという回答が67%、「よく声を出して取り組めた」は47%で、「速いけどだんだん歌えるようになった」「メロディーがつくと覚えやすくて良かった」等、肯定的な回答が多かった。

仮説3

教科書の既習の英文を授業の中で繰り返し音読する機会を作っていけば、自信を持って音読できるようになり、音読の声も大きくなるのではないか。

実践3

生徒一人ひとりが英文の意味を理解した上で音読できるようにするため、新出語句や本文の内容、基本文等を学習した後、本文の音読練習を主にペアで繰り返し行った。一人ひとりが少しでも自信を持って音読できるよう、練習の際は、ペアでの教え合いはもちろん、教師の机間指導も行った。できる限り本文を暗唱できるようになるまでペアで練習し、その後、教師がチェックするようにした。

検証3

ペア練習の際には、わからない英語の読み方等を教え合いながら、ほとんどのペアが協力して音読練習に取り組んでいた。アンケートの結果でも、「協力して取り組めた」「よく声を出して音読できた」は80%、「ペアでの音読を通して、以前よりも英語がよく読めるようになった」が67%と、ペアでの音読は一応、効を奏したと言えるかもしれない。

研究の成果

このアクション・リサーチの実施によって、生徒の多くは以前よりも楽しく意欲的に英語学習に取り組む面が見られるようになり、音読等の声も大きくなってきたと思う。アンケート結果からは、「おもしろかった」「とても声を出せていて良かった」「英語を覚えられた」「間違っているところに気づいてちゃんと言えるようになった」「何回もやることで英語が自然と身についた」等の感想が寄せられ、少なからず研究の成果を得る事ができたのではないかと思う。

今後の授業改善の課題

今後も、歌やチャンツ、ゲーム等を通して英語への興味を喚起しながら、英語学習の基本とも言うべき音読指導を中心に取り組んでいくとともに、意欲が乏しく、取り組みの不十分な生徒への指導にも力を入れていきたい。さらに、ALTによる音読テストや、本文をアレンジ・創作したものを発表し、生徒相互が評価し合う暗唱テスト等、少人数授業の良さを生かした取り組みもぜひ行っていきたい。